

県央稲作情報 No.7

令和8年7月8日
三条農業普及指導センター
電話：0256-36-2340

高温気象に注意！後期栄養の確保を！

コシヒカリの出穂期は平年より2日早まる見込み。幼穂を確認して適期に穂肥を施用し、葉色の維持に努めましょう！

1 生育調査結果（7月8日現在）

コシヒカリ 草丈：やや長 茎数：やや少 葉数：並 葉色：並

品 種	草丈 (cm)		茎数 (本/㎡)		葉数 (葉)		葉色 (SPAD)	
	本年	指標値比	本年	指標値比	本年	指標値差	本年	指標値差
こしいぶき	64	103%	479	94%	11.2	-0.4	38.7	+1.7
コシヒカリ	67	106%	417	91%	10.9	+0.3	36.1	-0.9
新 之 助	55	100%	592	106%	11.0	-0.1	36.2	+0.2

調査点数：こしいぶき 5、コシヒカリ 12（分施・一発含）、新之助 4（JA、普及センター調査）
指 標 値：コシヒカリ、こしいぶき、新之助とも分施体系の数値

2 今後の天気（7月4日～8月3日：新潟地方气象台7月2日発表）

向こう1か月の平均気温は、高い確率 60%。降水量は平年より少ない確率 40%で平年並みの見込み、日照時間は、多い確率が 40%で平年並みの見込みです。

3 栽培管理のポイント

（1）予想出穂期と穂肥施用の時期・窒素成分量のめやす

品 種	予想 出穂期	穂肥 1 回目			穂肥 2 回目		
		出穂前 日数	施用 時期	窒素成分 (kg/10a)	出穂前 日数	施用 時期	窒素成分 (kg/10a)
こしいぶき	7月22日	23	6/29	1.0～1.5	14	7/8	1.0～1.5
コシヒカリ	8月1日	18～15	7/14～7/17	1.0～1.5	10	7/22	1.0～1.5
新之助	8月9日	21～18	7/19～7/22	0.5～1.5	12～10	7/28～7/30	0.5～1.5

※稚苗でコシヒカリ 5月5日、新之助 5月15日移植の場合の予想

※田植時期や気温で出穂期は変わる。必ず幼穂長を確認して施用する

※施用時期や施肥量は、生育状況や葉色を確認して判断する

（2）穂肥施用時期の確認方法

ア 幼穂長の測定による診断

カッターなどで割る

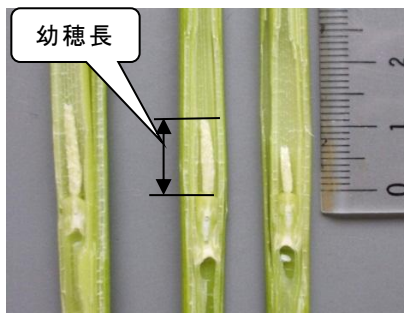
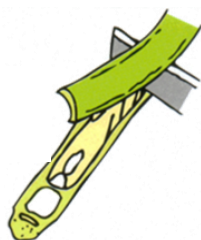
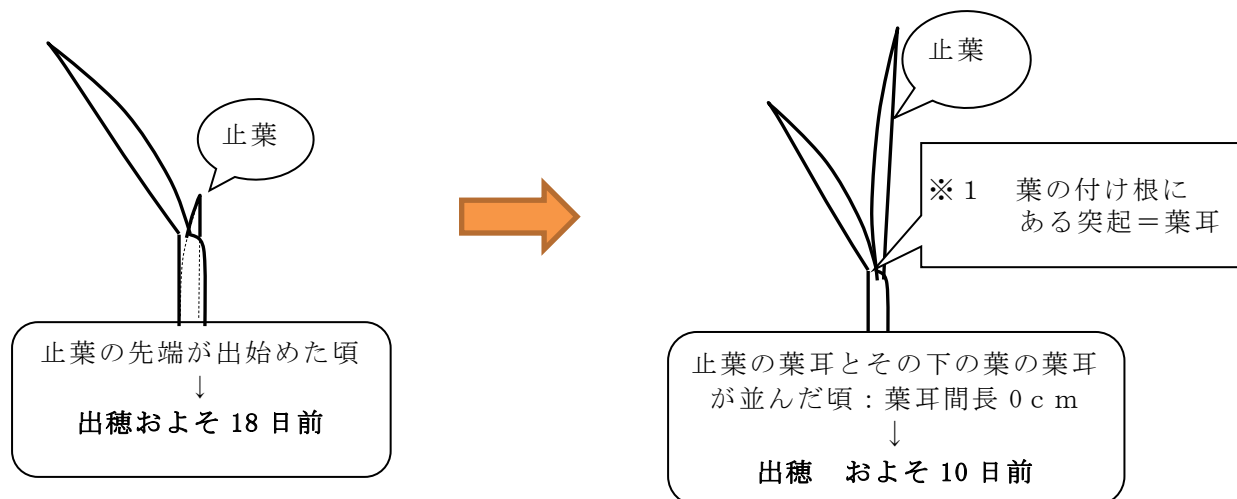


表 出穂前日数と幼穂長

出穂前日数 (日)	幼穂長 (cm)
24	0.1
20	0.2～0.4
18	0.5～1.0
12	4～6
10	8～11

※ ほ場において、平均的な株の最も長い茎から2本を用いて測定する。
数株調査し、総合的に判断する。

イ 葉の出方による診断



(3) コシヒカリの穂肥対応

ア 分施肥系の穂肥対応

- ・ 1回目穂肥は、下表を参考に施肥量・施肥時期を決定する。

表 出穂期 18 日前の稲姿と生育診断のめやす

診断項目	基準値	診断のめやす
草丈 (cm)	75	草丈長い→施用量を減らす 葉色濃い→施用時期を遅らせる
葉色 (SPAD 値)	32～33 程度	草丈長く、葉色濃い→遅め控えめ、又は施用しない 草丈長く、葉色淡い→後期栄養確保のため適期施用

- ・ 2回目穂肥は確実に施用する。1回目穂肥が出穂期 18 日前より遅れた場合は、1回目施用日の 7 日後を目安に施用する。
- ・ 2回目の穂肥施用後も葉色が指標値を下回る場合には、後期栄養を確保するため、3回目穂肥を検討する。

イ 全量基肥施用体系の穂肥対応

- ・ 出穂期 10 日前頃にかけて葉色が淡くなり、出穂期の葉色 (SPAD 値) が 32～33 を下回ると予想される場合は、ただちに窒素成分で 1.0～1.5kg/10a を追肥する。

(4) 早生の追加穂肥対応

- ・ 2回目の穂肥施用後も葉色が淡い場合は、下表を参考に 3 回目の穂肥（出穂期 3 日前まで）を施用する。

品種	出穂期の葉色のめやす (SPAD 値)
こしいぶき	38
ゆきん子舞	36～38